

インド亜大陸が南方から移動してきたという説は、初めてヒマラヤを登山した中川にはあらためて鮮烈だった。移動する亜大陸には生物が乗ってきたはずだ。その証拠にか、キャラバン途中でまるで熱帯やら灼熱の砂漠から来たのかしらんと思う多肉植物を見かけた。造園業者や、都会で流行る花ジャックみたいに、運んで来た人が昔いたはずはない。この地 西ネパールに何度も来ておられる大杖哲司隊長が過去に？いやいやまさか・・・(笑)。中川は首をかしげた。この人たち(植物のことだが)がたどった時空の長い旅路の途中には、そんなにも暑く乾燥した時代が本当にあったのか？そこで生物地理学の本 田端英雄「植物の分布」¹⁾を読んでみた。

昔、 Gondwana大陸が分裂したり他の大陸と合体したりして今の北米、南米、アフリカ、ユーラシア、南極、オーストラリア等ができたプレートテクトニクス説は言う。これらの大陸からは同じ生物の化石が見つかり、それがこの学説の有力な根拠だというのだ。Wikipedia「グロッソプテリス」のこの植物化石の写真はインスタ映えして美しい。上記の北米、南米、アフリカ、ユーラシア、南極など広い場所から同じ化石が出るので、同様の動物たちとあわせて「Gondwana生物群」と呼ばれるそうだ。様々な植物たち、リストロサウルスというちょっとユーモラスな中型動物、ワニみたいなやつはメソサウルス、いろんな生物たちがGondwana大陸で一斉にデビュー、大活躍した。そして迎える大陸の分裂、移動・・・それがもたらす別れと新たな出会い、ついにヒマラヤでの登山隊との遭遇・・・面白い物語になりそうだが中川は文芸の才がない。誰か書いて下さい！

1970年代だと思うがヒマラヤ南チベットでグロッソプテリス化石が見つかった時、学者たちには少なからぬショックだったはずだ。北米西岸ですでにGondwana生物群の化石が発見され北米の一部がGondwanaから来たと思われてはいたが、北米の一部がヒマラヤと共通の土地の分配に昔あずかったとは驚きだ。Nur と Ben-Abraham1981によれば、もっと昔にはパシフィカという大陸があった(図1)。2.25億年前南極のそばあったパシフィカは、分裂し、1.8億年前には赤道の南にまで北上し、1.35億年前には現在の地図と重ねると、日本付近や北米付近や、ここには無いがインド付近にまで移動したと彼らは推定した。動く亜大陸は、まるで、ひょっこりひょうたん島だ。

ヒマラヤで出会う生物たちは、本当にはるかな時空からやってきて他の生物とまじりあって、今の時空をとともに生きている。ヒマラヤの生物の風景に時空の歴史をあらためて教えられ、思いに打たれた。化石もいい、生きた実物ももっといい、もう一度、会いたい。(続く)

文献1) 田端英雄「植物の分布」、太田次郎 他編「基礎生物学講座」9「生物と環境」、朝倉書店、1993年。

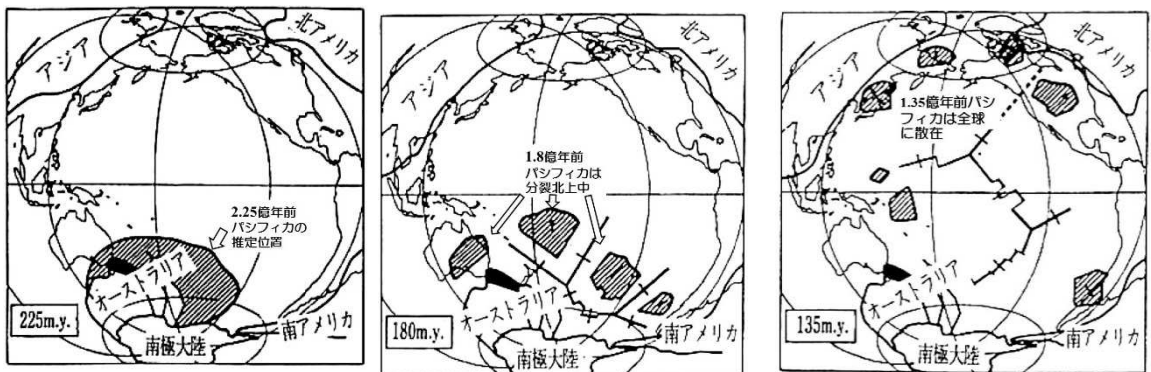


図1. 田端英雄「植物の分布」Nur と Ben-Abraham を改編。パシフィカは1億年の旅路をへてヒマラヤへ